

Si Se Puede!

L. A. ホテルニューオータニ報告

Oidon

十一月一日(木)

AFL-CIOの産別組合Hotel Employees & Restaurant Employees Union (HERE)のロサンゼルス支部LOCAL 11の元オルグ門川さんの紹介でローカル11ニューオータニ組織化担当のオルグのフレッド(Fred Passar)さんとリサ(Lisa Payne)さんに会った。ローカル11の組合員は約9000名、オルグは300~400名うち220~250名が元組合員。組合員をコミッティ(選挙で選ばれる訳ではない)シヨップスチュアートとは違うらしい)と呼ばれる行動的な組合員として育て、その中からオルグへと成長させている。WORKERの中から組合を担う次の人材をきちんと育てているという感想だ。

ホテルニューオータニは従業員が250名いる。内訳はラテンアメリカ人、フィリピン人、アフリカ人、白人、そして日本人が30名。組合の支持者は120名、そのうち80名が外での抗議活動に参加する名乗りを上げた組合員だそうだ。フレッドさんはまだまだ支持者を増やさなければダメだ、日本人は誰も組織化できていないという。日本人は日本人だけで固まっただけ、日本人だけ労働条件がいいぞうだ。また経営側は都合で勝手な事をやっている。例えば昨年、組合が賃上げのキャンペーンをした時、会社が勝手に給料を50セント〜1ドル上げホテルが上げたと宣伝した。が、その替わり

有給休暇をとり上げた。ホテル内のアゼリアレストランでは二年前から週5日労働だったのに週6日労働にされた。またある部門では1日8時間労働が7時間30分にされた。

ニューオータニ組織化の手伝いをしたいと提案し、具体的には組合が組合に入る可能性があるかと判断している(以前アンケート調査した時2人だけ回答をくれた)日本人と会い話しをする。オルグといつしよに家を訪問することにした。組織化予定の名簿を渡された。名簿の中のKUさんが一番可能性があるとのことだ。

門川さんと別れ、フレッドさんとリサさんの3人でローカル11に行く。ニューオータニ担当のオルグは5人いる。他はベティ(Betty Guardado)さん、ルイス(Luis Aguilas)さん、シルバ(Beatriz Silva)さん。

フレッドさんは以前は教員の補助をしていた。オルグになって10年。オルグの仕事は自分の人生にとってよりベターだしお金もいし利益になるだろうとのこと。

リサさんは以前はレストランや銀行で働いた。今は組合で法律を担当している。法律家、弁護士と言っていた。またなぜ組合に来たのと質問すると闘うことが好きだからとのこと。ベティさん、ルイスさん、シルバさんたちには会えなかったが3人とも元組合員、コミッティだったぞうだ。

組合事務所は2階建てのビル。1階は集会ホール(200名は入れる)と会議室。2階がオルグや役員の事務所。2階で委員長のマリアさんと偶然会う。「日本から来ました。ニューオータニのお手伝いをします。」というのと、とっても喜んでくれた。

フレッドさんと十一月五日にいつしよに日本人宅を訪問することを約束し帰った。



ローカル11組合事務所

ローカル11の組合事務所はロサンゼルスを中心部
ダウンタウンにあり、ひときわ目立つ壁画が印象的だ。

住所は 321 South Bixel Street

Los Angeles, California 90017

e-Mail は Local11@aol.com Tel(213)481-8530

この事務所に車で仕事を終えた後に通った。

二月一五日(月)

フレッドさんに連絡したところ日本人従業員と連絡が取れない。
水曜日にようとのこと。

二月一七日(水)

組合に約束の6時に行くと、オルグのルイスさんとベティさんとニ
ーオータニチームのコミッティのアドリアナ(勤続19年、キッチンで
働く、組合歴7年)さんが来て、4人でいっしょに行くことになった。
(最初からそいつ計画だったみたい。)

ベティさんはセンチュリープラザホテルで3年半働き、やはりコミッ
ティからオルグになった。オルグになってまだ5ヶ月の新米だそ
うだ。

1台の車に便乗し、最初に向かったのはニューオータニのすぐ近く
のマンション。(このマンションに向かう途中たくさんのホームレス
の人々を見た。昼間、ここダウンタウンに来てあまり見かけなか
ったのだが、こんなに居るとは気が付かなかった。歩道上にダンボ
ールハウスを建て今晩は過ごすらしい。なかに一つドーム型のテン
トがあった。日本も同じだよと話した。(ここにIKさんという日本
人が住んでいる。同じマンションに住むニューオータニチームコミッ
ティのドナ(勤続11年)さんとその子供もオルグ団に加わり総勢
5名十子供でIKさん宅へ。しかし息子さんが出て来て母は出掛
けているとのこと。ルイスが後でまた来るから伝えて下さいと言っ
て次の訪問先KUさん宅へ車で向かう。

KUさん宅はコリアンタウン近くの古い造りのアパートで、ガタが
きているエレベーターで7階へ。しかしここも留守。扉に郵便物が置
いたままになっていてノックをしても誰も答えず。KUさんは水曜
日が休み、しばらく待ったが帰ってくる気配がなく諦めた。再びI
Kさん宅へ。まだ戻っていないと息子さん。しかしこれは居留守だ
と判明した。地下の駐車場に行くと、IKさんの車が置いてあっ
た。

結局今晩は空振り。ドナさん親子と別れ、アドリアナさんを自宅
に送りローカル11に戻る。また偶然委員長のマリアさんと会う。
ルイスが報告。そりやー残念と委員長。

明日組合のミーティングがあるという話しを聞いたので行きたい
と言つと、喜んでどうぞ。5時からあるとのことだ。

十一月十八日(木)

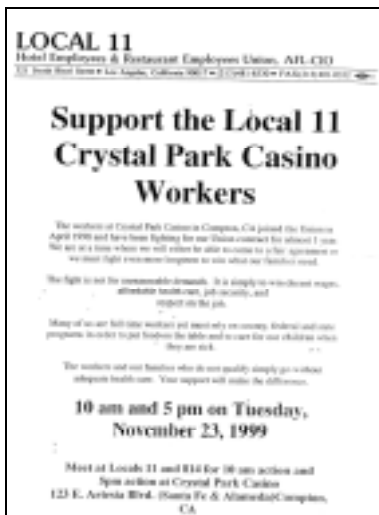
5時半頃着くとミーティングはもう始まっていた。メンバーは60〜70名ぐらいい、こんなに大勢の集まりとは思わなかった。後で知ったが1ヶ月に1度のコミッティのミーティングだった。ルイスが居たので挨拶して隣に座る。委員長もいる、他のオータニのメンバーも来ているとのこと。タベ会ったアドリアナ、ドナの2人も来ている。



〈 コミッティのミーティング 〉

3日前に出来た新しい組合の紹介。新組合員が全員前に出て拍手拍手、そして挨拶。いいぞ、ヒーヒー。日本と同じです。英語とスペイン語が使われている。主力はスペイン語、英語しか判らない人のために通訳がついている。途中でオータニのもう一人のオルグのシルバさんを紹介された。集会は規律が厳しく隣の人と無駄なおしゃべりなんかをしていないと他の参加者からシーと注意される。もちろん寝ている人などいません。女性が主力で参加者の8割以上は女性だ。それにオルグも女性が圧倒的に多い。オータニのオルグも女性3名、男性2名。

来週の二三日にクリスタル・パーク・カジノの支援デモ(資料1)がある。そのためにむけ女性オルグ、委員長が凄いい勢いでアジル(むろんスペイン語)。迫力あるなあと感心。そのあと集会参加者からの発言。また参加者同志のやりとりもある。活発な議論がある(なにを言っているのか判らないが)という感を受けた。最後に委員長からオータニの支援に来ている日本人がいると紹介され、オータニチームのメンバーといっしょに前に出てこいと言われた。「日本から来ました。オータニチームのお手伝いをします。一緒に闘いましょう。」と挨拶をしたらオオーと歓声。そしてローカル11の歌が始まった。(この集会の盛り上げに一役買いました。)



〈 資料 1 〉

1998年からクリスタル・パーク・カジノの労働者は組合結成を闘っている。午前10時と午後5時の2回、支援の行動を行う。

この全体集会后各組合やチームに別れミーティング。オータニチームはコミッティが11名(女性9名、男性2名)参加。チームは毎週(0.2週に1度)ミーティングを持つとのこと。これにオルグのルイス、ベティ、シルバ、の3名が加わっている。またローカル11の調査担当のデレクターの女性(名前不明)が参加した。今回の議題は二三日の集会に誰が誰をオルグして連れて行くかということ。ベティが書記と司会を務め前に貼った紙にコミッティの名

前とオルグ対象を記入していく。議論はオータニの闘いが以前ほど盛り上がりがなくなってきたので誰かを連れて行くのは非常に難しい状況にある(7年前からの闘い)ということ。ルイスが家を訪問する等いろいろやれると意見。途中で4名が用事や勤務で帰る。最後に残った7名に改めて紹介される。今日初めて「コミッティ」として参加した人もいた。会話はすべてスペイン語です。シルバとルイスがデレクターの女性と僕のために少し通訳してくれた。デレクターの女性と少し話し。ローカル11は「A」のホテルの14%を組織化しているという。今日もアンケートを配った(資料2—実物はスペイン語と英語の表裏)、このアンケートを組織化していないホテルの組織化に役に立てる。

〈資料 2〉
組織化のための調査票。
友人や家族、知り合いが
未組織化のホテルで働いて
いないか？

一月一九日(木)
ルイス(8年間コンベクションセンターでコック、コミッティからオルグになり2年。現在30歳とK.U.さん宅へまだ帰宅していない様子。約1時間、7時50分まで待ったが帰って来ない。ルイスと一旦組合

に戻る。僕が「どうするの？他の日本人のところは行かないの？」と聞くと、ルイスが「おまえはどう思う」と言うので僕は「行こう」と答え、出でかけることになった。

KAさん宅に向かう。フリーウェイ110と101を使いKAさん宅へ。住宅街の二戸建てだった。家の明かりが点いているみたい。玄関をたたくとKAさんが出てきた。日本から来た事。ローカル11、組合の話をしに来たと伝える。KAさんは「僕はもう働いていないから、オータニと関係ないから。首になったから。」という。どうしてですか？「今年の5月に大きな手術をした。骨盤が崩れて人工骨盤を入れた。8月に退院し、リハビリしなきゃならないので医者から証明書を貰いホテルに出したのだが、ホテルはそんな物は受け取っていない、もう働けないなら首だとされてしまった。今は保険で生活している、リハビリは週3回行っている。いざとなったら(自分が動けなくなったら)医者から証明書の「ピー」を貰っているの何かやる(裁判?)。今からでも遅くないですからローカル11に来て相談しませんか。組合はKAさんの事でオータニと闘いますよ、不当な解雇ですから勝てますよ。」その時が来たら僕が自分でやりますよ。」

最初は玄関の鉄網戸越しの会話だったがKAさんが外に出てきた。KAさんの話し—自分で自分のお店を持っていた、その後他のホテルのコックで働く(シアトルで?)。この時組合を作った、でもホテルが潰れた。オータニには13年勤めた。長年の労働、重い物を持つたりして骨盤の骨が崩れた。店を持っていた時掛けていた保険で暮らしている、でも医者から打ち切られるかも知れない。奥さんといっしょだから面倒は親でもらっている。手術のせいで左足が少ししか上がらない。リハビリに行く時ローカル11のところを通るの

でこの事をローカル11に持っているところとも思った。

KAさんは僕より英語が達者なのでルイスとやり取り。ルイスは「すぐ組合の俺のところに連絡してくれ。オータニはひどい。組合で闘おう。他の日本人を紹介してくれないか。」といい名刺を渡した。KAさんは「みな一人一人生活がありますし、日本人は英語が話せないから、怖がっていますよ(組合が出来てホテルが潰れることか?)」。ルイスが電話してくれと何度も聞きKAさんはOK、OKと答えていた。ぜひ連絡して下さい、お大事にと言って辞去した。ルイスはKAは絶対電話してくる、われわれは成功したと興奮気味。僕もやったねと、ルイスと一緒に喜んだ。ローカル11に戻るとオータニの他のコミッティメンバーが来ていた。この夜、教師の集会がありオータニのコミッティメンバーがその集会に参加してオータニのことを宣伝して帰って来たところだった。フレッドに早速今晚の報告、フレッドはKAの電話番号は聞いたか?と鋭い質問。

KAさんが本当に連絡するかまだ判らないので早めに訪問した方が良いとなり二四日(水)にルイスとリサと僕の3人で再び訪問することにした。その日はKUさん宅にも行く予定。

オータニのコミッティメンバーはルイスから今晚の話しを聞き喜んだ。そして、みんな(7名)でサンタモニカに行きメキシコ料理とお酒をごちそうになりました。

一月二三日(火)

夕方からクリスタル・パーク・ホテル・カジノの組合結成のデモと集会に参加した。クリスタル・パーク・ホテルにはフリーウェイ91で行けばよいことを地図で確認していたが、あいにくの帰宅ラッシュ。ロサンゼルスは全米でも有数の交通渋滞が発生する都市なのだ。行く手前方左側にホテルのネオンサインが見えて来て目印になっ

た。ルイスはフリーウェイ91のアルテシアで降りると電話で言っていたが、その降り口がなくひとつ先まで行き、道を戻りなんと午後6時前にホテルに到着。車をホテルのすぐそばを通るメトロの駅の駐車場に入れ、デモに合流した。



〈 クリスタル・パークカジノ前のデモ 〉

ホテル前の歩道にプラカードを持った集団が3組、シユプレヒコールを上げながらグルグル周り歩く。見知った顔、ルイス、フレッド、リサ、シルバ、ベティ、オータニのコミッティたち。プラカードとロウソクをもらいデモに参加。ロウソクの意味はHOPE、希望のことだ。夜に似合う希望の灯。道を通過する車が支持表明のクラクションをビービーと鳴らす。乗用車よりトラックの方が良く鳴らしてくれる。チームスターの組合の人たちかなと思った。

デモが終わり、総括集会をメトロの駐車場で開く。集会が始まる。組合員の子どもたちのシユプレヒコール、家族そろって参加している。司会者が参加している職場・ホテルの名を呼び上げ参加者がオーと答える。日本からも参加しているかい?オーオー。クリスタル・パーク・カジノ担当の女性オルグ(一八日のミーティングでアジ



〈 デモ後の集会 〉

ッていた人)が演説。クリスタル・パーク・カジノの組合員が挨拶。黒人3人組(一人は一八日のミーティングで歌の音頭をとった人)の唄。これは音響装置もきちんと用意され、テープにあわせ、のりのりのコーラス。音楽にあわせ踊り出す人もいる。

委員長のアジ。宗教者のRev. Von Lawsonさんの話。あとでルイスから聞いたがこの人はキング牧師みたいな人でとっても人気があるそう。うだ。Lawsonさんは「Never Give Up」を何度も繰り返し強調していた。再び黒人3人組のコーラス。この頃になるとゾロゾロ帰り出す人がでる。手作りの大きな看板やプラカード、コーラス等集会もあきが来ないように工夫されている。参加者の顔を見る限り平均年齢はちよつと高めか。女性が7、8割を占める。スペイン語が主で、英語は従。デモ、集会とたいした混乱もなく当たり前になさされている。ルイスに日本では組合員集会で歌はあまり無いよと言つとそんな馬鹿な。非暴力大衆運動の伝統か。

ニューオータニのメンバーを送つて帰るルイスとベティに明日6時に会う約束をして、帰宅。

一一月二四日(水)

リサの都合が悪いためKAさん宅訪問は来週にすることになる。僕、ルイスとベティの3人で組合に入りたらしいNAさんを訪問する。ルイスからNAさんにこれに書いてもらえと、組合加入証を渡される。NAさんが住むアパートに到着。部屋を訪ねる。NAさんが出てきた。訪問の意を伝えると、「わたしは組合に入りたいと思つてないし、組合に興味はない」との返事。そうですかとガツガツした。ルイスとベティに「ピープルはたいがいそうさ、気にするな」となぐさめられる。組合に入りたらしいとの情報は間違いだった。

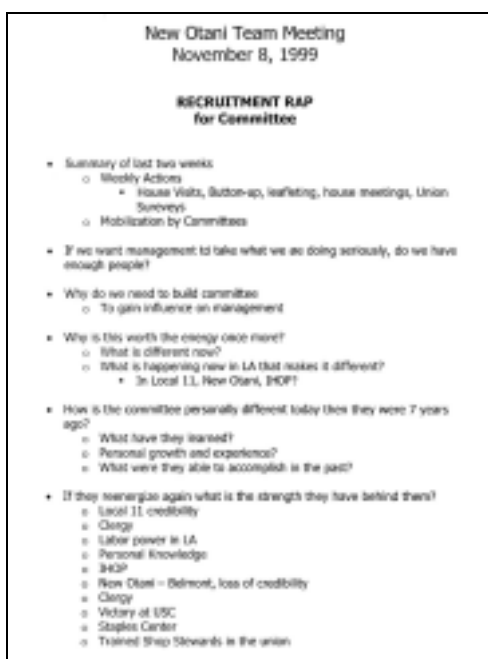
次のKUさん宅に行く途中でメキシコパン屋さんによりルイスにパンを買つてもらつた。それとお店の前で露天商売しているメキシコ女性からクリスマスシーズンだけに食するメキシコちまきとトウモロコシ粉シナモン・牛乳・ココア入りの暖かい飲み物を買ひ食べる。この女性はパン屋さんに来る客を相手に商売している。パン屋さんはなにも言わないのかな。商品を積んでいるのはスーパーのカートです。(このカートを押しているホームレスの人も結構見ました。)ちまきはなかなか美味でした。メキシコパンは甘いものが多かった。KUさんはまた留守。

組合に戻り、じゃあまた月曜日。明日からはサンクス・ギブンス・デーの休暇となり、組合活動もお休みになる。僕は旅行に行く予定だが何か手伝つことがあれば組合に来ますよと提案したが、組合も休みだよということ。

一一月二九日(月)

ローカル11でニューオータニチームのミーティングに参加。参加者はオルグ4名とコミッティメンバー7名。フレッドから二月一〇日にニューオータニ前で開かれる組合の集会とパーティーの呼びかけ文

の日本語訳を頼まれる、この場ですげやってくれと。辞書を引き引きなんとか完成。清書してくれとのこと、どっやらそいつをピラに刷るらしい。ミーティングはほとんどスペイン語で内容は不明。一二月一〇日の組合の集会とパーティのオルグ担当等が話し合われたらしい。



ニューオータニチームコミッティのミーティングの議題:ここ2週間の活動のまとめ、その他。

ミーティング終了後、僕とリサとルイスの3名はKAさん宅へ。リサはカルフォルニア出身、オータニ担当オルグの中でリサが唯一アメリカ生まれの英語圏の人。

KAさんに法律担当のリサを連れてきたとしばらく玄関で話した後、KAさんが家の中に入れてくれた。リサとルイスが質問し、KAさんが答える。KAさんは30年間コックをしている。腰が痛くて動けなくなり、3月末に会社を休み始める。4月に入院し、5月に手術。8月にクビになったとのこと。

KAさんにオータニのことを聞いた。日本人労働者も不満はあ

るが給料が高く我慢している。オータニの経営者は日本人を東京から連れてきたり帰したりしている。昼休みは45分だが日本人コックのわたしは他にやる人がいなかったから15分しか取れなかった。年末年始は1日20時間労働したりした。オータニはセクハラの問題があつたりいろいろと問題がある所です。またKUさんは組合に関心がなく、あまり期待できないとわかった。

リサがKAさんの書類を作るようになった。その書類を持って再度訪問することになりKAさん宅を辞去した。KAさん宅へは行きも帰りもリサの車で行った、そのリサと車のなかでの会話。KAさんは58歳と聞いていたけどわたしには70歳ぐらいに見えたとリサ僕にも老けて見えました、きつとお酒のせいでしょう、お酒の臭いがありましたと僕。KAさんに関わるより他の労働者にもっとやることとがあるとりサ。僕たちが掴んでいる日本人労働者はKAさんだから、彼を通して他の日本人を紹介してもらおうと僕。リサも同意した。

一二月一日(水)

組合に行くが駐車場に入れない。駐車場はリモコンで開閉するゲートが付いている。今までは幸運が重なり、出かけて来るとちやうど誰かがいたりしてゲートを開けてもらえた。が、今晚は他の組合員が来るまで30分待たなければならなかった。

組合に入れたがルイスもだれもない。エルサルバドル出身のオルグのアナさん(以前にメキシコ料理と一緒に食へに行った女性)がいたので、ルイスのバイパー(呼び出し専用のポケベル、オルグは必ず持っている)にTELEしてもらった。ルイスから連絡が入り、アナさんが僕を連れていくことになることになった。

連れていかれた先はエル・プエブロというロサンゼルスに近い町の観

光地。ロサンゼルスがメキシコ領だった頃のこの町の発祥地だそう
だ。ルイスが待っていて、水曜日は食事すると言ったじゃないか、ロ
サンゼルス中のユニオンリーダーが集まっているよ、と言う。僕には
何のことかわからなかったが、連れていかれたレストランではカル
フォルニア・フアーマーユニオン主催の慈善ディナーが開かれてい
た。



〈 マーチン・シーンさんとニューオータニの仲間たち 〉

ち上がり大きな拍手。シーンさんは次の用事で帰るとのこと、そ
の際オータニのテーブルに寄りみんなと握手。僕のことをシルバが

オータニのメンバーが
集まっているテーブル
に座りメキシコ料理を
いただく。同じテーブ
ルにいた人で初めてみ
る人を紹介された。デ
ビット・コフというロー
カル11のリサーチャ
ーだった。慈善ディナ
ーは5時45分から開
かれていてもう終わり
近く。主催者の挨拶が
あり、映画俳優のマー
チン・シーンが紹介さ
れ、大きな拍手。シー
ンさんはニューオータ
ニのことをしゃべり、オ
ータニのメンバーが立

シーンさんに紹介し、シーンさんはおおグッドと握手を求めてき
た。シーンさんは組合に理解があり、いい人だよとシルバが言うて
いた。シルバはまたシアトルのWTO抗議行動のことを言うて、どう
思うと聞かれた。僕は日本からもたぶん抗議に参加しているよと
言い。本当なのとシルバはうれしそうだった。
ディナーが終わりルイスのジープで組合に戻る。ジープはなぜ好
きなのと僕。山なんかが好きなのだ、ヨセミテ国立公園には毎年
行くよとルイス。明日、他の日本人労働者を訪ねることを約束して
帰宅した。

一二月二日(木)

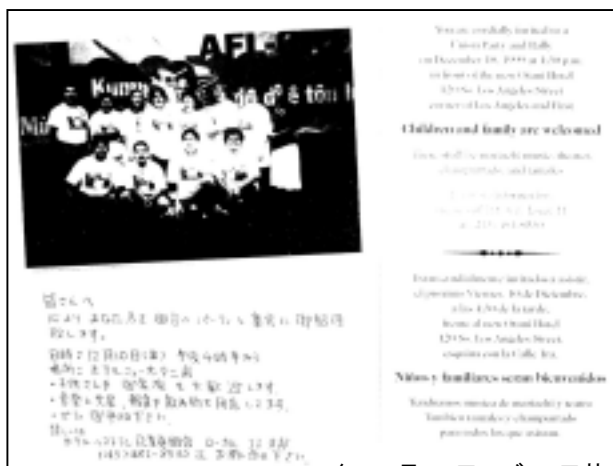
組合に行くよとルイスが今日は結婚記念日なので帰ると。そりやお
めでどう何年目だい。9年目だ。という訳でベティとIKさん宅へ出
かけた。

同じマンションに住むオータニチームのドラを誘い3名でIKさん
を訪れる。息子さんが出て、母はいないといい。どうやら会いたく
ないらしい。ドラは仕事で腰を痛めている、今日も病院に行つて来
たとのこと。辛そうだ。何か漢方の飲み薬を知らないかと聞かれ
た。

ベティとどうするかと相談。名簿をみて、休みの人を捜し、行つて
みることにした。腰の痛いドラも行く。根性がありますね。SIさん
宅を訪問。チャイムを押し待つと中から人が出てきた。オータニ
で働くSIさん宅であることを確認し、訪問の意図を話した。しか
し、本人はいない、今日は働いているとのことだった。

組合に戻ると、フレッドから一二月一〇日のピラを渡された。見
ると僕の訳した文がそのまま印刷されていた。明日は午後3時か
らホテルニューオータニ前でデモがあるとのこと。3時は参加でき

ないなあ、仕事申だし。
一二月三日(金)



〈 12月10日のビラ:日英スペイン語 〉

3時のデモには参加できなかった。組合に行くといスはいなかった。組合スタフにバイパーコールを頼んだがルイスからはなにも連絡がない。7時すぎにリサが現れた。本日のデモの時、オータニのコミッティの一人がコミッティを辞めたいと言いだして、今ルイスたちが説得しているとのこと。(後日聞いたが4人で2時間話し、コミッティを続けることになった。)

僕はリサにひとつの提案をした。それは南カルフォルニアで出されている「Bridge USA」という無料の日本語情報誌(日系旅行社などの店頭においてある)がニューオータニで料理の鉄人のチャリテイイベントを二月一日に計画している(このイベントは今年で2回目)。「この「Bridge USA」という雑誌社にローカル11が賛成すれば日本から抗議文を送つたらどうかということだった。リサはこのイベントのことを知らなかったらしく、それは良いと賛成してくれた。でも他の人に聞いてみる必要があり、明日フレッドと会うから電話を下さいと言う。

この案はフレッドも賛成したが、結局リサーチャーのコフのローカル11のボイコットの力はまだ弱い、ローカル11の戦略があるのでやる必要はないという意見でボツとなってしまった。残念。月曜日に僕の送別食事を開くとのこと。たいした成果がないのに何か悪い気がした。

一二月六日(月)

組合にいくといルイスはいたが他のメンバーはまだ来ない。他のメンバーを待つ間にオータニの日本人労働者に電話することにした。(これは土曜日と日曜日にもやったが番号違いでほとんどかからなかった。)月曜日休みの人でIOさんに電話する。うまくかから、本人が出た。日本から来てユニオンのお手伝いをしている、少しお話がしたいという、あつさり「いいですよ。」

IOさんはニューオータニに働く前に違うレストランで働いていた時17年間ユニオンメンバーだったとのこと。オータニで働く面接を受けた時、ディレクターからユニオンをどう思うか?と聞かれた。良いと思うと答えたなら怒られ、その面接で組合思想のチェックをずっとされた。「オータニにユニオンが出来れば、ロスアンゼルス中のホテルが変わりますよ。わたしはユニオンにサインしました。もう一人の人もわたしが誘いサインしました。日本人では二人だけでした。ユニオンは近頃活発に見えませんが、以前は毎週金曜日にピラマキヤ、抗議行動していたのにピラマキヤもないし、不活発になっている。」ということ話をしてくれた。明日連絡してくれることになった。ルイスにIOさんの話しを話すと言った。

電話している間にフレッドたちが来た。フレッドはなにを食べたいと聞いて来た。寿司か中華か?どっちがいい。僕はテーブルを囲ってみんなと食へられる中華を選択した。フレッドもそれを望んでい

た。チャイナタウンの中華料理店に出かけることになった。僕とオ
ルグ全員フレッド、リサ、ルイス、ベティ、シルバと委員長のマリアさ
ん、計7名での食事。エビチリ、エビスープ、アスパラ、カニ、サカナ、
ご飯等豪華な食事だった。マリアさんからお礼の言葉となにを学
びましたかと質問。Si Se Puede! ですと答える。オーツ!
みんな喜び、Si Se Puede! Si Se Puede! Si Se P
uede! と繰り返す。記念撮影。WTO抗議行動の話題。抗議に参
加した南アフリカの労働組合がローカル11を訪問したそうだ。ま
た来て下さい。来ないの? 食事が終了。

組合に戻り、サヨナラ、握手、今度いつ来るの。日本でもローカル1
1のために何かします。サヨナラ、サンキュー。バイバイ。別れはせ
つなく、辛かった。

一二月七日(火)

IOさんから電話が入り、今日会いましょう。時間は午後3時、場
所はダウンタウンのコーヒーショップで待っていますと。仕事を抜
け時間通りに出かける。しかしIOさんもコーヒーショップの店名
がわからなかったので僕もあっちこっち捜しまわった。ようやくあ
の人かなと見当をつけ、尋ねたら大当たり。大海の中でようやく
見つけたって感じで、すごくうれしかった。IOさんはアメリカに
来てもう28年。でも日本人社会で生きているので英語はあまり
得意ではないとのこと。

IOさんの話では、オータニの悪いところは生活がかかって働い
ているのに簡単に人のクビをきることに。会社が最低ランクの支払い
しかしないので保険が悪く、医者にお金がかかることだとのこと。
またオータニは規律と仕事が厳しく、常に従業員にプレッシャーを
かけている。各従業員は成績書に基づいて査定される、違反行為を

やるとワーニングをつけ、1年に3回ワーニングをつけられるとク
ビにされてしまう。リストラが始まっていて、KAさんが首を切ら
れたのもその一環ではないかとのこと。組合に対しては最近不活
発との評価。また以前は組合に協力する日本人留学生がいろいろ
日本人従業員の面倒をみていたが、現在は無い。短い時間だったが
いろいろ話しを伺えた。

組合に連絡出来ますかと聞くと、友人の方を紹介された。その人
は別のホテルに勤めているがHEREの組合員だそうだ。ありがと
うございました。お元気で。

二日後、僕は日本に帰った。組合のスペイン語のシユプレヒョールS
i Se Puede! は英語だとYes, we can! だ。アメリカで僕は
組合運動の可能性をもらい帰国した。



《 i Si Se Puede ! 》

後列左シルバ、委員長、リサ
前列左ルイス、ベティ、僕、フレッド